**Chapter ８　論点の流れ**

◎本文によると....国際指標は絶対的なものではない。.

「国際指標とは、政治的意図等の影響を受けるもの」

　　　　　　　　　　・信頼のおけるものとは限らない。

　　　　　　　　　　・客観的なものとは限らない。

にもかかわらず、政策作成にも用いられている。(な面)

この章は、国際指標の使われ方を考えさせる内容で、表題には、「教師にとっての問題」とあるが、その詳細な記述はなく、読み手に考える余地を残している。

そこで私たちは、教師がどう国際指標を使うことができるかを考えてみた。

【論点】

本章で指摘されている国際指標のマイナスな面を踏まえて考えたとき、

教師は、国際指標を用いて何が出来るのか。

本章で筆者は、

国際指標には「教師・市民が、様々な国の実践を知り、考え、現状の改善に声を上げる手段になる」といったな面もある、という示唆を述べている程度。

上記の筆者の示唆に対して、班は

「教師や市民は、情報を知り、考えることはできても、そこまでに留まり、

現状の改善にはつながりにくいのではないか」

と考える。

Because

・教師と市民がコンテクストを深く考慮して指標を読み解くことは難しいため、

　声を上げたとしても、筆者が挙げる　　のような面の影響を大きく受けた、つまり客観的エビデンスに基づかない提言（改善に繋がる声）になってしまうから。

では、本章で指摘されている国際指標のマイナスな面を踏まえて考えたとき、

教師は、国際指標を用いて何が出来るのだろうか？？